

学校研究

(1) 研究主題

自分の考えをもち、伝え合い、深め合う算数科の授業づくり

～ 目標で貫かれた授業で わかる・できる姿を目指して ～

(2) 主題設定の理由

昨年度は、「自分の考えをもち、伝え合い、深め合う算数科の授業づくり」を研究主題とし、子どもたちの「わかった・できた」につながる授業づくりをめざしてきた。そのために、これまで取り組んできた湯野小スタイルの日常的な実践と「話す」「聞く」の系統的指導を継続しながら、「考えを広げ、深め合う場面の指導の充実」と「学びの自覚化につながる振り返る場面の充実」を柱とした授業改善に努め、子ども同士が意見をつなぎ学び合う姿や、習得した知識や技能を使って問題を解く姿などを追及してきた。研究の成果としては、

- ・ 友達の考えにつなげて発表しようとする子どもたちの姿が増えてきた
- ・ 既習を他でも生かせないか考えようとする子どもの姿が見られるようになった
- ・ 表現の仕方を工夫したり考えを分かりやすく伝えたりする力が少しずつ育ってきている

などがあげられる。また、子どもたちの「わかった・できた」につなげ、理解力を深めるために、ねらいに応じた適用題を工夫するなど、日々の授業改善も図られてきている。

しかし、以下のような課題も明確になってきた。

- ・ 友達の考えにつなげて発表したり、ペアでの話し合いから全体交流の場で考えを深め合ったりしても、いざ適用題となると既習を使って自力で解くことができない
- ・ 思考力が弱く題意の把握が十分ではないために、自分の考えをもてないという児童が少なくない

研究主題にせまるためには、まずは自分の考えをしっかりともち思考を深めていく力、そして既習の知識や技能を活用して自分で問題解決していく力をつけていくことが必要である。さらに、子どもたちが学びを自覚し、わかった・できたを実感できるよう、また算数の教材本質の理解ができるよう適切に目標を設定し、その目標をふまえた適用題の吟味、授業改善も図っていかねなければならない。

そこで、今年度も昨年度同様に「自分の考えをもち、伝え合い、深め合う算数科の授業づくり」を主題とし、昨年度までに積み上げてきた湯野小スタイルをさらに深化させながら、これらの課題を改善し、授業改善に努めていきたい。さらに副題の「目標で貫かれた授業でわかる・できる姿を目指して」にあるように、教師が目標を明確にもち、目標達成に向けて授業を組み立てていく必要がある。

授業では、

- ・ 習得した知識や技能を用いて思考させる指導を工夫する
- ・ 算数的表現（具体物・式・図・言葉など）を使って説明し合う数学的活動を設定する
- ・ どのような適用題やふりかえりができれば、目標達成と言えるのかを吟味する

ことが必要であると考え。このことにより、新学習指導要領で求められる知識・及び技能、思考力、判断力を身につけさせていくとともに、学びに向かう力の向上にもつなげていくことで研究を深めていく。

(3) 研究の内容

- 湯野小スタイルの継続と深化
- 「話す」「聞く」の系統的指導 【学びの12か条+④】
- ◎書く活動の充実 【学びの12か条+③⑤】
- ◎考えを広げ、深め合う場面での数学的活動の充実 【学びの12か条+③④⑥】
- ◎適切な目標設定と学びの自覚化につながるふりかえる場面の充実 【学びの12か条+②③】

重点①書く活動の充実

- ・習得した知識や技能を活用して思考し、問題解決する場を設定し、授業改善に努める。
- ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるように、ノート指導の充実を図る。
- ・見通しをもち、筋道を立てて考えられるように、授業で扱う問題や適用問題を吟味し、工夫する。

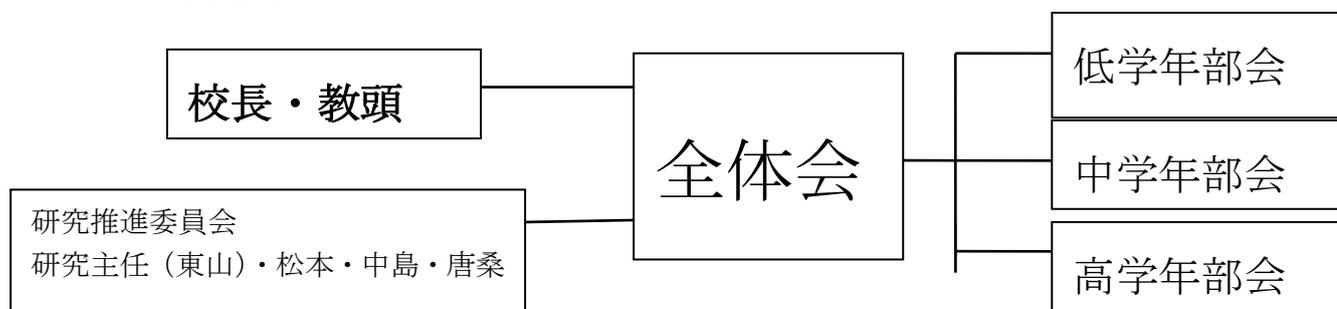
重点②考えを広げ、深め合う場面での数学的活動の充実

- ・全体交流の場面で子どもの思考を深めていくために、児童の思考を深める教師の発問や問い返しを吟味したり、効果的なペア・グループ活動の在り方を探ったりしながら、教師のコーディネート力の向上に努める。
- ・具体物、図、式、言葉、表などを用いて説明し合ったり伝え合ったりする学習活動を積極的に取り入れることで、子どもの思考力・判断力・表現力を育てていく。

重点③適切な目標設定と学びの自覚化につながるふりかえる場面の充実

- ・目標達成のためには、どのようなまとめやふりかえりが望ましいのかを、児童の言葉で考える。
- ・そのためには適用題はどのような問題にすればよいのかを、吟味する。
- ・活用問題が設定されている単元では、その問題が解けるように、振り返る場面を工夫する。

(4) 研究組織



- * 全体会・・・研究推進委員会からの提案をもとに研究の方向・方法・内容等について協議し、共通理解を図るとともに教材研究・実践交流を進め、研究を深める。
- * 研究推進委員会・・・研究の視点に立って計画・立案・整理をし、研究の推進に努める。
- * 部会・・・研究の視点に沿った計画を立て共通理解のもと実践をする。教材研究・授業研究・協議などをする。
 - 高学年部会...唐桑・作田・山内・野崎・田中
 - 中学年部会...東山・諸戸・石崎・東出・本藏・小田
 - 低学年部会...松本・小梁・高田・北川・教頭・中島

(5) 研究構想図

学校教育目標

確かな学力をもち、人間性豊かでたくましさをもった児童の育成

湯野っ子

よく考える子

思いやりのある子

進んで取り組む子

元気な子

研究主題

自分の考えをもち、伝え合い、深め合う算数科の授業づくり

～ 目標で貫かれた授業で わかる・できる姿を目指して ～

〈算数科でめざす児童像〉

- ☆自ら課題を見つけ、意欲もって学ぶ子
- ☆見通しをもち、筋道を立てて考え表現できる子
- ☆習得した知識や技能を活用して、問題解決する子
- ☆新たな問いを見出し、次への意欲を高められる子

算数科の本質の理解

- ・教材研究の仕方や算数の本質の捉え方
- ・目標を貫く授業づくり

「話す」「聞く」の

系統的指導

書く活動の充実

- ・習得した知識や技能を活用して、思考し問題解決する場の設定
- ・ノート指導の充実
- ・授業で扱う問題や適用題の吟味と工夫

授業改善・授業力向上

学び合いのある授業

湯野小スタイルの継続

1. つかむ
2. 考える
3. 深め合う
4. つかう・まとめる
5. ふり返る

考えを広げ、深め合う場面での
数学的活動の充実

- ・ペア、グループ活動など学習形態の工夫や教師の働きかけ
- ・全体交流での教師のコーディネート力の向上
- ・具体物、図、式、言葉などを用いて説明し合ったり伝え合ったりする

適切な目標設定と
学びの自覚化につながる
ふりかえる場面の充実

- ・まとめとふりかえり
- ・本時のねらいに沿った適用題の工夫
- ・活用問題の取り組み

学習規律づくり

基礎・基本の定着

学習環境づくり

家庭学習の充実

学級づくり

3. 令和2年度 年間研修計画

○授業研究 □授業スタイル

	主な研究内容	研究授業
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ・方針・方法・研修計画の検討 ・具体的な取り組み提案 □湯野小スタイル確認職員間でのスタイルの共有 □ノート指導の確認、聴き方・話し方の取り組みの確認 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○提案授業 ・校内研修会(模擬授業・指導案検討会) □「つなぐ学習」の指導開始 	提案授業(全体会)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開週間 ・校内研修会(指導案検討会) ○要請訪問 研究授業 ○各部会公開授業 	要請訪問(全体会)(仮)
7月	○各部会公開授業 ・実践交流(1学期の実践の振り返り)	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の授業研究(講師招聘) ・2学期の取り組み計画・交流 	
9月	○各部会での公開授業	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開週間 ○各部会での公開授業 ・校内研修会(模擬授業・指導案検討会) 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会での公開授業 ○計画訪問 研究授業 	計画訪問(全体会)(仮)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会での公開授業 ・実践交流(2学期の実践の振り返り) 	
1月	・3学期の取り組み計画・交流 ○各部会での公開授業	
2月	今年度の成果と課題について	
3月	次年度の計画	

☆全員、年1回以上研究授業、公開授業をする。

☆各部会で、1回研究授業をする。(1学期提案授業・1学期要請訪問・2学期計画訪問)

☆研究授業は、全体会で指導案検討、授業協議会をする。

公開授業は、各部会で指導案検討会、授業協議会をする。

☆研究授業の指導案形式は細案、公開授業の指導案形式は略案にする。形式は後日提案する。

昨年度提案された構想シートをもとに、目標で貫かれた授業にしていく。

☆学年で BEFORE・AFTER 形式にすることで、より深い授業研究をすることもできる。

☆研究授業・公開授業の後には、1週間以内にレポート(ふりかえり)を提出する。

形式は後日提案する。月1回の校内研修会で、公開授業の学びの報告を行う。

☆算数の研究授業の後には、研究部で成果と課題を確認する。そして、次の算数研究授業では、課題を改善していけるような働きかけをしていく。公開授業にも成果・課題を生かせるようにする。

☆他校の研究発表会への参加や先進校視察により研修を深める。

☆外部講師を積極的に活用し、指導力向上をめざして、授業改善に取り組む。